

編
集
後
記

●昨年を表す言葉は「偽」でした。何を信じて良いのかわからない世の中ですが、銘菓、ブランド食材、高級料亭などが長い年月をかけて築いてきた信頼があつという間に崩れていく様をみると、自分に当てはめるならば日々の診療で築き上げた患者さんとの信頼関係を大切にしていかなければと思います。その点、自然は嘘をつきません。相手が自然だと嘘やごまかしは通用しませんが、まじめにやっているのに魚が釣れないのはやっぱり腕のせい？ (川口博史)

●先日、1年以上一緒に働いている娘ほどの年の看護師が、サービス業の中の他の業種と違い医療の仕事は、理不尽なクレーマーや酔って絡む客などいなくてほとんどの人がありがとと言って帰ってくれる幸せな仕事だと感想を言っており、はっとさせられました。私事ながら1年半前に緊急入院をし、その後の闘病、年齢相応に家族の問題も避けては通れず、人間として未熟なので肉体精神ともめいっばいになってしまい、仕事の喜びに鈍感になっていました。遅まきながら少し気持ちを入れ替えて神皮の一員として改めて精進できればと思っ直しています。役立たずの編集委員として反省もこめて。 (岡 史子)

●今回ほとんど何もお役に立っていない編集委員で、大変肩身が狭いです。ごめんなさいm(_ _)m。個人的には、40代最後の1年が、2人の受験生と、ドラムばっかりたたいている異星人のような次男に振り回されるだけで終ってしまった感じでした。今年こそ、自分のための時間をもっと持ちたい！ と誓った新年でした。 (馬場直子)

●ケータイのTV・CMには、手品で「食卓にアヒル」や「ネクタイ秋刀魚」が出たりのバージョンもあり、また奇っ怪な家族も登場してきます。上戸彩の一家：母が樋口可南子なのに父はなんと犬！（これは居ぬ、即ち「父は居ない」と言う意味）、兄はアフリカ系（母の前夫がアフリカ系だったのでしょう）、叔父はイロカ（7世紀には蘇我入鹿と言う人も居ましたし）……などとこじつけて満足している日々であります。 (宮本秀明)

●理系の大学に通う普通の青年だった井上 亘君が、プロレス界のジュニアヘビー級の頂点に立ちました。「今度は必ず勝ってベルトを見せに行きます！」この約束を果たしに年末、ベルト持参で我が家にやって来ました。実直すぎるがゆえに、レスラーに不向きだといわれ続けてきた彼が、努力に努力を重ね8年目ようやくつかんだ栄光です。受験を控えた娘と息子に、「苦悩を突き抜けて歓喜にいたれ」と書いた色紙を残していってくれました。 (相川洋介)

●今年の冬は寒い日がつづき、最高気温が10度以下の日の日数が記録だそうです。おかげで持病の坐骨神経痛が悪化して悩まされています。はり治療に通いながらなんとかしのいでいるのですが、やはり気温の低い朝は、特につらく、早く暖くなって欲しいと待ち望む毎日です。 (小野秀貴)

●外来管理加算という、再診の患者さんから、何もしなかったときにいただいていた52点の診療報酬があります。軟膏処置という有形の医療行為が、それ以下の点数になることがあり問題になっていました。現在この加算を請求するためには、5分以上の診察が必要であるという案が中医協で議論されています。平日6時以降、土曜12時以降の診療が、皮膚科でも時間外加算になるようだし、今年は電波時計とにらめっこですね。 (浅井俊弥)

●カルテの置き場所に困り、昨年5月に電子カルテを導入してから半年以上たちました。導入当初は診察に時間がかかってしまい紙カルテの方がよほどいいと思っていましたが、取り扱いに慣れ、内容を改良することにより紙カルテのときよりも速く診察できるようになりました。今では書くことが面倒になり、紙カルテに戻すなんて考えられない状況です。慣れというのは恐ろしいものです。 (山本 修)

●先日患者さんから、毎月保険証をみせるようにいわれることへの不服を申し立てられ、びっくり！ 事情を説明しました。世間には職場がよく変わる人もいること、医療機関は毎月レセプト提出することで収入を得ているため登録された保険機関が正しくないと困ることなど、その人には思いもよらなかったわけです。このように、情報開示不足のために誤解をうむことは昨今の医療をめぐる状況では多々あると思われます。何でも開示すればよいというわけではありませんが、医療者側と患者さん側、お互いいらぬストレスをかかえないよう上手に情報開示を行っていくことが大切だと痛感しているこの頃です。 (河原由恵)

■表紙のことは

6年前に他界した父の晩年の趣味は写真撮影でした。こうして皆様の目に触れる機会を与えてくださり有り難うございます。特に富士山や横浜の風景写真に熱中していて、快晴だ、雪が降った、といっっては店を母に任せて撮り歩いていました。整理してみるとかなり失敗作がありフィルムを浪費していたようです。この写真は平成11年頃かと思いますが、今や横浜のシンボルともいえるみなとみらいの高層ビル群が、昼の顔から夜の顔に姿を変える刹那の幻想的な雰囲気醸し出しているところを撮ったものと思います。 (川口博史)

神 皮 〈第15号〉

2008年3月2日発行

発行 神奈川県皮膚科医学会

発行人 栗原誠一

〒254-0043 平塚市紅谷町14-24

電話 0463-21-3031

制作 かまくら春秋社